

令和5年度も、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は沢山の生徒の皆さんに校長室に来ていただきお話を伺うことができました。今年度も、感想や談話等の内容を掲載させていただく予定ですので、ご覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.135

R6.3.1 「卒業証書授与式」

快晴の中、多くの来賓の皆様のご臨席を賜り、「第64回卒業書授与式」を挙りました。

参列された皆様のご協力により、厳粛な雰囲気のまま当初の予定どおり式典を終えることができましたことに心より感謝申し上げます。

また、卒業生の態度も素晴らしく、心に残る感動的な卒業式でした。立派に成長した姿は保護者の皆様の目にも眩しく映ったことと拝察します。



この学年もコロナ禍の影響により、あらゆる教育活動が制限されてきました。思い描いていた高校生活との乖離に苦悩する日々も多かったことと思いますが、立ちほだかる苦難の壁を幾つも乗り越え、最後の最後まで学業や部活動に専念してくれました。

その粘り強い精神は、社会に出ても必ず大きな力になるものと確信しています。

皆さんには無限の可能性が 있습니다。心の持ちよう、人生をどのようにすることも可能です。常に前向きに、挑戦する心を忘れることなく、目標の実現にむけて強い信念と意志を持って歩み続けてください。

One for all, All for one. No.136

R6.3.4 「自衛隊入隊予定者激励会」

旭川市が主催する自衛隊入隊予定者の激励会に出席してきました。

本校からも例年、防衛大、防衛医科大、一般曹候補生、自衛官候補生にそれぞれ入隊を希望する生徒がいます。自衛官の皆さんは、国の平和や国民の生命を守り、世界的問題を解決し、国際平和のために積極的かつ主体的に活動するなど、すべての国民のために日々ご尽力されています。

元日に発生した能登半島地震でも、危険な状況下、いち早く現場に駆けつけ、必死の人命救助や物資等の供給に努められていました。

大変な職務ではありますが、何より崇高で尊い使命を有しています。入隊予定の生徒の皆さんには、そのことに自信と誇りを持たれ、日々の訓練や活動に励み、強靱な肉体といかなる状況にも動じない精神を培っていただきたいと思います。



R6.3.5 「校内研修会」

北翔大学教授の 森 靖明氏を講師にお招きし、「生徒指導をあり方」について考える校内研修を実施しました。

生徒指導の主眼は「生徒が自分らしく生きることができる存在へと成長する過程を支える」ことにあります。教師自ら生徒とのコミュニケーションを積極的に図り、常に寄り添い一緒に物事を考えていく中で、生徒主体の成長や発達を支えていく取組です。



その中で培われるあらゆる事象への理解や思慮が、単に過ちを未然に防ぐということだけでなく、生徒一人一人の個性や可能性を伸ばし、社会的資質や能力の発達を支えることにつながっていきます。

今回の研修で、生徒指導の目的が「生徒の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える」ことにあることを改めて再確認しました。

ご多忙な中、中身の濃い説明内容に加え、分かり易い膨大な資料まで用意していただきました講師の森先生には、この場をお借りし心より感謝申し上げます。

R6.3.12 「しごと探究フェア」

2年生を対象にしたこの催しは、アートホテルを会場に道内外の企業30社余が一堂に会し、仕事の内容について高校生の理解を深めることを目的に例年行われています。

多種多様化する職種や業務内容等について直に話を聞けることもあり、本校も進路ガイダンスの一環として教育活動に位置づけています。

生徒は予め興味関心のある企業を4社選び、仕事の内容についてより具体的な話を聞いて回ります。予想していた通りのケースやまったく異なるケースなど様々ですが、進路を改めて考える良いきっかけとなっています。

学校での進路相談も定期的に行っていますが、専門の方々の話にはやはり説得力があり、生徒も真剣に耳を傾けていました。



R6.3.13 「分野別進路ガイダンス」

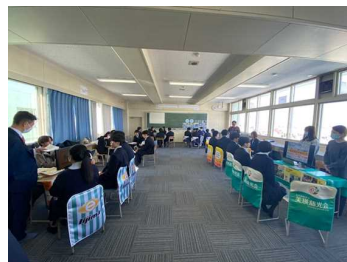


昨日の「しごと探究フェア」とリンクさせ、その職に就くまでの道筋を理解してもらうことを目的に、同じく2年生を対象に「分野別進路ガイダンス」を校内で実施しました。

大学、短大、専門学校、民間企業が協力し、15の分野に分かれて各々に講座を開設していただきました。生徒は各講座から研

究内容や取得できる資格、さらには就職に至るまでの道筋を学びます。

既に進路を決めている生徒も数多くいますが、そこに至るまでの具体的な道筋を理解することは高校卒業後の取組にも大きく影響します。理解を深め明確な進路目標を持つことこそが実現へのカギとなります。



One for all, All for one. No.140

R6.3.15~19 「春の龍谷祭」



今年度を締め括る「生徒会イベント」が3日間にわたり開催されました。生徒会総務役員を中心に各クラスの担当者が斬新な企画・運営を試み、思い出に残る楽しい生徒会行事にしてくれました。

初日は有志によるパフォーマンスが行われ、歌やコントなど大いに会場を沸かせました。

後半は「下剋上対決」と名付けたスポーツによる顧問と部員の対抗戦です。ミニバレー・バドミントン対決、サッカー・バスケットのシュート対決、校内でのビーチ・フラッグスなど、見応えのある対戦に生徒も大注目でした。



二日目は「学校クイズ」と「校内謎解きイベント」です。チームが協力しながら謎を解いていくゲームは何より「ひらめき」が重要になります。

今年は全クラスを色別（5色）に分け、学年の枠を超えたチーム編成という新たな試みを実現しました。

三日目はスポーツ大会です。リアルター夢リンゴ体育館をお借りし、男女のバレーボール、ドッジボール、借り人競争、クラス対抗リレー等が行われ、各色に分かれた応援団の声が響き渡りました。

全校生徒もルールを守り協調しながら各イベントに積極的に参加するなど、中身の濃い春の龍谷祭となりました。



One for all, All for one. No.141

R6.3.20 「照曜コンサート」



今年もまた「照曜コンサート」の季節がやってきました。会場となった市民交流センター CoCoDe には多くのファンが足を運んでくれました。

第一部のステージでは、ソロパートやアンサンブルを取り込み、個々の素晴らしい音色を際立たせる演出に聴衆もどんどん惹き込まれていきます。また、コンサート後に全

国大会に出場するメンバーによるセッションは見事としか言いようがないほど感動的な演奏でした。

第二部は合唱部のステージです。全道出場の常連校だけあり、男声、女声、混成といつもおどおりの見事な歌声を披露してくれました。また、このステージにはOBや中学生も協力してくれるなど、趣向を凝らした盛りだくさんのステージに盛大な拍手が送られました。

第三部は誰もが知っている名曲ばかりの演奏です。時を経ても決して色褪せることない曲を厳選しOB・OGの皆さんの協力も得ながら、来場者を大いに楽しませてくれました。

フィナーレは吹奏楽部と合唱部合同による「奏楽」、そして本校の応援歌で締めくくられました。



One for all, All for one. No.142

R6.3.21 「彼岸会」

お彼岸は、ご承知のように日本独自の仏教行事です。季節の変わり目の「春分」と「秋分」に西に沈む太陽の先に阿弥陀仏の浄土を想い、此岸（この世）から「彼岸（お浄土）」へ至るための仏事として取り組まれてきました。

西方の極楽におられる阿弥陀仏を礼拝することから、一般的には極楽を偲ぶ日、先祖を偲ぶ日とされています。



ところで、お彼岸には「おはぎ」をお供えますが、理由を調べたことはありますか。

古来「赤色」には「魔除け」の力があると言われており、そこから赤い小豆から作られた「おはぎ」が邪気を払う食べ物として、ご先祖様への感謝と家族の健康を願って墓前やお仏壇にお供えされるようになったと言われています。お供えする前に食べてしまった人はいませんか（笑）

One for all, All for one. No.143

R6.3.22 「終業式」

早いもので、全生徒を対象とした令和5年度の教育活動も本日をもって一旦終了です。4月からは新年度となり、それぞれが一つ上の学年での教育活動をスタートすることになります。

今春卒業した生徒は中核である2年時に現校舎に移転したため、新しい環境に慣れるまでには心理的負担もあったことでしょう。さらに、コロナ禍で様々な教育活動が制限された学年でもありました。そんな苦境の中でも勉学、部活動で大きな成果を出し、地域貢献にも尽力するなど新生龍谷の素晴らしい伝統の礎を築いてくれました。

現生徒の皆さんには先輩方の功績を引継ぎつつ、周囲の信頼を確固たるものにできるようさらなる躍進を大いに期待しています。

◎最後までご覧いただき有り難うございました。